

熊本地震を経験して

全国手をつなぐ育成会連合会 西 恵美

熊本県で、9年前の2016年4月14日（木）午後9時26分（震度6時弱）と2日後の16日（土）午前1時25分に、震度6強の地震がありました（益城町ではどちらも震度7を観測）。

しかし、2回の大きな地震が続けて起きたにもかかわらず、直後に亡くなった方は50人あまりで、阪神淡路大震災、東日本大震災とは大きく違いました。地震が起こった時間が在宅時間だったこと、14日の前震で避難所に避難した多くの人たちが余震を恐れてそのままとどまっていたこと、大火災や津波の被害がなかったことなどが幸いしたようです。

それでも、発災後2ヵ月で余震は2000回を超え、私たちの仲間にはそれぞれに苦労があったようです。発災後の2回の会員向けアンケートで、その大変さが見えてきました。

アンケートでは、「本人が落ち着かない」「音、においに敏感で嫌がる。周りに気を使いたくない」「迷惑がかかると思い、はじめから避難所に行く気はなかった」などの声が聞かれました。

会員の多くが避難所には行かず、自家用車の中や自宅で避難生活を送っていました。避難所の場合、たくさんの人がひしめき合う中で、「じっとしていられない」「落ち着かないのでブツブツ独り言を言い続ける」などの言動をとってしまいがちです。そういった私たちの子どもに対する「差別」や「偏見の目」を避けたかったというのが多くの方の本音でした。



熊本地震で石垣が倒壊した熊本城



地震直後の事務局の様子



被災者対応をしていた当時の事務局



疑似体験プログラムの様子

その結果として、余震の揺れを軽減できること、また、そもそも車に乗ることが好きな方も多ことから、車中泊を選択する方が多かったようです。私たちも経験した立場から、あえて〈車中泊を楽しむ〉ことを念頭に、「簡易トイレや、毛布などをはじめ、本人が落ち着くグッズなどをメモとして書き出しにおいて、いざという時にすぐ車に積み込めるよう準備しておくのもいいですよ」とアドバイスしています。

さらに、地震や大雨などの被災経験を踏まえ、全国の育成会の仲間が、親として、我が子をたくさんの人に理解してもらうための取り組みをしています。私たちの子どもがどんなふうに見えているか、感じているかを知ってもらい、避難所に限らず、どんな配慮を必要としているかを知っていただくための疑似体験プログラムをそれぞれの地域で展開しています。

一人でも多くの方が理解してくだされば、私たち家族も安心して避難所に避難することができるのではないかと考えています。

阪神淡路大震災を経験して思うこと

一般社団法人 神戸市手をつなぐ育成会 会長 後藤久美子

30年前のあの日あの時まで、私は、「神戸に地震は来ない」と当たり前のように思っていました。たぶん大方の神戸市民も同じように考え、無防備だったと思います。それが単なる都合の良い思い込みに過ぎないと知らされたのは、1995年1月17日午前5時46分のことでした。ドーンという物凄い音と共に強烈な縦揺れが発生し、そして、今度は家が倒れてしまうのではないかと思えるほどの激しい横揺れが延々と続きました。

のちに、「阪神淡路大震災」と呼ばれたこの地震は、国内で史上初めてとなる「震度7」を記録し、死者・不明者は6400人を超え、全半壊等の被害を受けた住宅は約63万棟にのぼりました。高速道路は倒れ、ビルは倒壊し、一瞬で街の様子は様変わりしてしまいました。全国から多くのボランティアの方が駆け付けてくださり、「ボランティア元年」と言われました。「福祉避難所」という考え方も、この地震を機に生まれました。

その後、福祉避難所は各自治体で整備され、最近では福祉避難所への直接避難が自治体の「努力義務」にもなっています。しかし、施設が倒壊したり職員が被災したりした場合、福祉避難所は開設することはできません。また仮に開設できたとしても、施設の受け入れ人数の上限もあるかと思いますので、単純に、直接避難を推奨することは無責任で、何らかの方策が必要になると思います。

その他、避難生活が難しい障害者等、配慮の必要な方のために、私の地元・神戸市では一般の避難所の中に「福祉避難スペース」が設置されており、その数は実に、2024（令和6）年12月時点で、指定避難所322か所中の225か所に達しています。この「福祉避難スペース」に関しては、たとえば、高齢者と知的障害者が同室で過ごすことが難しい場合も想定されるため、福祉避難スペースの細分化、つまり、複数の部屋の確保を、現在、神戸市にお願いしているところです。

さらには、避難先の選択肢として、在宅避難者や車中泊者に対する支援も必要ですし、また、避難所の概念を覆すという意味合いからも、「カラオケボックス」も選択肢の一つになり得るのではないかと、ある講演会で聞いたことがあります。

最後に、「南海トラフ地震臨時情報」が昨年発表され、忘れかけていた「大地震への恐怖」が蘇ってきました。科学的に想定される最大クラスの「南海トラフ地震」が発生した際には、広域にわたる強い揺れとともに、10mを超える大津波が襲来するとも言われています。

こんな怪物に襲われたら、もう私たちにはなす術ありませんが、取りあえずは、防災関連の100均グッズをリュックに収めて枕元に置いたり、カセットコンロを準備したりと、会員の中には、個人レベルで人それぞれにできることを実践している方もいます。ちなみに、30年間変わらず私がやり続けていることは、枕元に懐中電灯を準備しておくことと、浴槽には常に水を張っておくことです。思いのほか役に立つことだと思います。

おわりに

日本発達障害連盟では2014年度に、厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業で「災害時ににおける知的・発達障害を中心とした障害者の福祉サービス・障害者福祉施設等の活用と役割に関する研究」を実施しました。その際に、みなさまにご活用いただける報告書やパンフレットを作成しております。

下記 URL に掲載しておりますので、ぜひご活用ください。 <https://jlidd.jp/project/project-9274/>

事業所紹介

発達支援の中核的な施設

「なとり児童発達支援センター」（宮城県名取市）

.....子ども親も共に育つ、「共育」の場として

私たち学校法人寿なとり学園は、名取市初の幼稚園である「なとり幼稚園」創立以来、今年度で70周年を迎えます。これまで市内で、2園の幼保連携型認定こども園を運営してまいりました。学校法人による児童発達支援センターの設置は、全国的にも珍しいかもしれません。

開設の原点には、「障がいのある下の子も、兄姉と同じ幼稚園を卒園させたい」という保護者の切実な願いがありました。これまでも幼稚園では加配職員を1：1で配置し、統合保育に取り組んでいましたが、次第に受け入れが困難に。泣きながら入園を願う保護者に、断る私たちも泣きたくなくなるような思いでした。

そんな中、名取市でも「児童発達支援センター」構想が持ち上がり、私どもも公募に応じ、2024（令和6）年5月1日に開所する運びとなりました。当センターは、「児童発達支援」「保育所等訪問支援」「相談支援」の3つの事業体から成り立つ、地域の療育の中核的な役割を担う施設です。

私たちは「療育」を、保育園・幼稚園の延長線上にあるものと捉えています。何よりも自主的な「あそび」を大切にしながら、保育士・児童指導員に加え、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理師、看護師な

ど多職種の専門スタッフが連携し、それぞれの専門的な観点から発達に向き合い、支援を行っています。

子どもたちの成長には園庭と太陽が欠かせないと考え、センターには、砂場や遊具のあるプレイパークや、感覚統合に特化したトレーニングルームを整備。思い切り遊び、自ら挑戦できる環境を整えています。ランチルームでは、子ども・保護者・先生が共に食事を楽しみ、食べることの喜びを育むことを狙いとしています。

また、独自の取り組みとして「レスパイト事業」があります。これは、子どもだけでなく保護者のケアも大切にするという考えに基づくものです。センターの療育は「親子通園」から始まり、保護者にも療育に参加していただきながら、親子分離が可能な際には、施設内の「カフェ・レスパイト」でお茶を飲みながら一息つける時間を提供しています。カフェでは、センターの保護者はもちろん、地域の方々にも開かれた座談会やペアレント・プログラムなどを開催。保護者同士の交流や情報交換の場として好評をいただいています。

まだまだ道半ばではありますが、中核的な施設として、子どもたちの幸せな未来づくりを支えられるよう、今後も全力を尽くしてまいります。

（学校法人寿なとり学園 理事長 佐藤宏郎）



なとり児童発達支援センターの外観と内部



準会員・賛助会員募集

私たちの事業活動にご賛同いただける会員（個人・法人）を募集しています

年会費（1年間4月1日から3月31日まで）／会員特典がございます

〔準会員〕1口 50,000円 〔賛助会員〕1口 10,000円

詳しくはホームページにて

● ご賛同いただきありがとうございます（順不同／敬称は省略させていただきます）

【2024年度（25.1.29～25.3.31）】

豊田翼 瀬能聖美 飯泉弘仁 緑風園 上田征三 田中一宏 麓正博 関あゆみ

【2025年度（25.4.1～25.4.30）】

葵陽塾 飯泉弘仁 瀬能聖美（特非）にじと風福祉会 はすの実作業所（福）さくらんぼの会（特非）わかば春日部（社）lykke 精華 石井玲子
金子健 前本達男 伸栄学習会北栄教室 宮本伸治 武藤直子 原仁 立松英子（一社）みのりの里（一社）ソーシャルサポートだれでも
TASUC（株）（福）一粒（特非）さつき寮 仁尾志保 四俣一幸 浅井研 さざんかキッズ 志賀利一 関谷繁 障害者支援施設いずみの里
生活介護事業所大きな木（福）あしたば中野学園（株）アスタス Live ステーション上野田町 慈愛会保育園 麻生誠二郎 狛江市児童発達支援センター
ゆたか福祉苑 安藤美智子 御供正明 宇津峰十字の里（公財）十愛会十愛病院 宮崎章子 竹下洋久 平林道子 片山文彦 障害者支援施設白鷹陽光学園
（福）靖和会ラシーネ西東京（福）敬業会ときわ（福）俊真会 障害者支援施設ひかり苑 岐阜県知的障害者支援協会 八王子平和の家 須藤章
（特非）ごとべえの会 ひまわり学園 田中康雄 池谷尚剛 望みの門木下記念学園 名古屋恒彦 松岡太郎 岡部昭平 愛名やまゆり園 山内俊久
ホープ会 日野学園 岡山県手をつなぐ育成会 上田征三 佐藤貴志（福）地の星ペロニカ苑（株）ホアラウナ代表取締役坂本務 マナの家
大島藤倉学園（福）小諸学舎 村林秀紀 なわて更生園 藤根美穂 シェアハウス Peace（株）さくらみち 千川おひさま幼児教室 武蔵野児童学園
山本恵子 森英一 入道雲（福）澄心（福）くにみ会くにみ園（福）さざんか会のまる（福）千手会木の宮学園 麓正博（有）波田建設 羽田紘一
（福）松里福祉会（特非）自立 白鳥福祉館（一社）日々木の森（福）墨田さんさん会 藤枝第三心愛 入江紀夫 虹の家（福）野菊寮 武田信子
（福）昂 障害者支援施設そだち園（福）せたがや榎の木会まもりやま工房（株）ベストサポート 障がい者施設あすなろ（福）さざんか会 宮崎千明
青葉メゾン 博愛ヴィレッジ（特非）カモミール 竹重博子 障害者支援施設みつば学園 あさざりの里 こども発達支援センターぴーち
障害者支援施設まがたま かながわ地域活動ホームほのぼの 児童発達支援施設桐友学園 都築陽子（財）ひょうご子どもと家庭福祉財団
埼玉県社会福祉事業団あけお（社）長野県知的障害者育成会ドリームワークス（福）ゆうき福祉会（特非）はーとふる
岩瀬地区児童発達支援センターパニラ（福）後志報恩会銀山学園 田中一宏（特非）あおい糸（福）鈴風会すずかぜ 旭出生産福祉園
（福）正和会障害者支援施設サポートなごみ 東堀切くすのき園 橋本佳美（福）むくどリクトスマイル 障害者支援施設東山荘 松本和久
しりべし学園成人寮（福）第二つじヶ丘学園 はなわ育成園（特非）i&i つなぐのところ ひだまりのところ あさひが丘学 山田純子
（福）愛心福祉会 吉川真知子 小石信子 曾田千重 谷口奈保子 土橋とも子 第2コムハウス・ゆい 近藤直子 坂本裕 小豆沢福祉園
江東区こども発達亀戸センター（福）みらい工房 日本社会事業大学附属子ども学園（福）よるべ会（株）メガテラフーズ東松山第一事業所
（福）三田谷治療教育院 稲葉美保 島山和男 内山登紀夫 ルンビニー園 聖家族園 光の家新生園 稲城市発達支援センター分室レスポー・いなぎ
（福）侑愛会（福）緑星の里やまぶき（福）ひつじはたらき 稲垣真澄 小畑信彦 博愛こども発達支援センターあそびのお城 余市幸住学園 鳴鳴学院
（福）京都杉の木会京北やまぐにの郷 永井尚子 シャーロットこども発達クリニック（福）関谷福祉会（福）柏涛会 ほうあんふじ とぶき育成園
竹の塚福祉園 相談支援室かすみそう 港区立児童発達支援センター（福）ななくさ 美咲学園 侑愛荘



公益社団法人 日本発達障害連盟

私たちは、世界の知的障害・発達障害のある人々が、障害のない人と共に参加する共生社会の実現を目指しています。

【構成団体】

当事者と親・保護者の会

一般社団法人

全国手をつなぐ育成会連合会

【ホームページ】<http://zen-iku.jp/>

【TEL】03-5358-9274

福祉施設関係者の団体

公益財団法人

日本知的障害者福祉協会

【ホームページ】<http://www.aigo.or.jp/>

【TEL】03-3438-0466

学校教育関係者の団体

全日本特別支援教育研究連盟

【ホームページ】

<http://zentokurenhp.world.coocan.jp>

【TEL】03-3822-1606

研究者の団体

一般社団法人

日本発達障害学会

【ホームページ】<http://www.jasdd.org/>

【TEL】03-5814-8022

一般社団法人

全国手をつなぐ育成会連合会



公益財団法人

日本知的障害者福祉協会

全日本特別支援教育研究連盟

全特連



一般社団法人

日本発達障害学会